



## 2022年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月5日

上場会社名 サンネクスタグループ株式会社  
 コード番号 8945 URL <https://www.sunnexta.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高木 章  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理財務グループ長 (氏名) 吉田 勇  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月15日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-5229-8839

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年6月期第1四半期の連結業績(2021年7月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第1四半期	2,086	4.3	156	0.3	159	5.4	99	79.5
2021年6月期第1四半期	2,000	4.0	156	26.6	169	21.5	55	58.5

(注) 包括利益 2022年6月期第1四半期 1,851百万円 ( %) 2021年6月期第1四半期 542百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第1四半期	9.95	9.67
2021年6月期第1四半期	5.66	5.42

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第1四半期	15,008	10,602	69.8
2021年6月期	12,975	8,905	67.7

(参考) 自己資本 2022年6月期第1四半期 10,480百万円 2021年6月期 8,785百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期		15.00		17.00	32.00
2022年6月期					
2022年6月期(予想)		17.00		17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日～2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,600	12.7	880	5.2	910	0.4	1,770	230.6	175.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期1Q	11,173,500 株	2021年6月期	11,159,800 株
期末自己株式数	2022年6月期1Q	1,146,888 株	2021年6月期	1,146,888 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期1Q	10,019,412 株	2021年6月期1Q	9,805,378 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ<sup>1)</sup>(3)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(会計上の見積りの変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の再発出やまん延防止等重点措置の適用などにより社会経済活動の制限が継続し、ワクチン接種の進展による収束が期待されるものの、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境においては、コロナ禍の影響はまだあるものの、働き方の変化や人手不足により、効率化あるいは管理コスト低減を図るための外部委託を検討する企業や管理組合が増えております。

このような状況のもと、当社グループは、中期ビジョン「NEXT STANDARD 2025」の実現に向けて、5ヵ年中期経営計画（2020年7月～2025年6月）を推進しており、2022年6月期は、コロナ禍における新規受注の回復に向けた活動を行いながら、ストックの維持・拡大を目指してまいります。

社宅マネジメント事業では中堅企業向け新サービスの開発とデジタル化への投資を継続しながら、社宅アウトソーシングサービスで培ったノウハウで人事・総務部門のあらゆる課題を解決する人事・総務向けBPOサービスの拡大に取り組んでおります。一方、マンションマネジメント事業ではデジタル化への投資を継続しながら、前期からの期ずれ工事案件に対処するとともに、管理サービスや清掃サービス、管理組合と接するフロントマンの対応力向上といった、品質改善に向けた取り組みや、居住者の暮らし方改革の支援によるサービスの付加価値向上に取り組んでおります。また、インキュベーション事業では、収益力の強化及び一層の品質向上並びにマネジメントの効率化を目的に組織再編を行い、住まいを管理する事業者に向けたサービスプラットフォームを提供する「マネジメントサポート事業」の育成に取り組んでおります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、新規受注の回復に向けた活動には遅れはあるものの、ストックの積み上げが堅調に推移したことから20億86百万円（前年同期比4.3%増）となりました。営業利益は会計システム入替に伴う移行費用の増加等により1億56百万円（同0.3%減）、経常利益は前期発生した保険解約返戻金の影響がなくなったことから1億59百万円（同5.4%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期発生した退任取締役に対する特別功労金の影響がなくなり99百万円（同79.5%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いておりますが、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ①社宅マネジメント事業

社宅マネジメント事業においては、一部業績等の影響から価格重視の企業の委託条件見直しの動きはあるものの、住宅制度・運用の見直しや周辺業務の更なる外部委託ニーズが高まっており、社宅関連業務のアウトソーシングへの関心は高い状態を維持しております。売上面では新規顧客の獲得、既存顧客のストック件数も増加し、概ね計画どおりに稼動したことで、受託収入や付帯の手数料収入が順調に増加したことから、売上高は10億12百万円（前年同期比3.3%増）となりました。利益面では一部システムの償却満了や秋の繁忙期の人件費コントロール等により、営業利益は3億54百万円（同9.8%増）となりました。

#### ②マンションマネジメント事業

マンションマネジメント事業においては、緊急事態宣言下での活動に制限があったものの、ネット広告掲載による引合いは増加しており、マンション管理戸数は堅調に推移しました。また、不動産活用サービスにおける買取再販取引が増加したことから、売上高は9億78百万円（前年同期比5.7%増）となりました。利益面ではリフォームサービスの完工遅れに加え、技術者の採用費の増加や新たなサービスブランドの費用発生があったことから、営業利益は2百万円（同87.8%減）となりました。

#### ③インキュベーション事業

インキュベーション事業においては、24時間対応のコールセンターサービスが増加したことから、売上高は95百万円（前年同期比1.0%増）となりました。利益面では組織再編に伴い人件費等が増加したことにより、営業損失は5百万円（前年同期は0百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ20億33百万円増加し150億8百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ5億32百万円減少し、61億27百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少10億98百万円、営業立替金の増加4億52百万円、その他に含まれる未収還付法人税等の増加1億42百万円、売掛金の減少1億14百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ25億65百万円増加し、88億80百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加25億25百万円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ3億35百万円増加し、44億5百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ4億33百万円減少し、19億74百万円となりました。これは主に未払法人税等の減少2億64百万円、その他に含まれる未払消費税等の減少1億65百万円、営業預り金の減少1億21百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ7億68百万円増加し、24億31百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加7億71百万円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ16億97百万円増加し、106億2百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加17億52百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月期通期の連結業績予想につきましては、2021年8月10日付「2021年6月期 決算短信」にて公表いたしました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2021年11月5日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,091,682	2,993,231
売掛金	355,698	—
売掛金及び契約資産	—	241,377
営業立替金	1,474,858	1,927,177
商品	1,395	1,416
販売用不動産	92,536	141,660
仕掛品	10,468	10,541
原材料及び貯蔵品	10,627	12,224
その他	624,677	803,244
貸倒引当金	△1,722	△2,970
流動資産合計	6,660,221	6,127,903
固定資産		
有形固定資産	671,828	684,583
無形固定資産		
のれん	204,224	195,723
その他	134,589	157,442
無形固定資産合計	338,813	353,166
投資その他の資産		
投資有価証券	5,014,121	7,539,554
その他	290,479	303,387
投資その他の資産合計	5,304,600	7,842,941
固定資産合計	6,315,243	8,880,691
資産合計	12,975,464	15,008,594
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	189,313	142,576
未払法人税等	344,811	80,622
営業預り金	658,815	537,341
賞与引当金	62,040	137,639
役員賞与引当金	10,128	3,775
株主優待引当金	5,974	—
その他	1,136,906	1,072,810
流動負債合計	2,407,988	1,974,765
固定負債		
退職給付に係る負債	188,740	186,366
繰延税金負債	1,464,889	2,236,539
その他	8,717	8,222
固定負債合計	1,662,346	2,431,127
負債合計	4,070,335	4,405,892
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	908,886	915,690
資本剰余金	1,100,036	1,106,840
利益剰余金	3,945,832	3,875,398
自己株式	△459,582	△459,582
株主資本合計	5,495,172	5,438,346
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,290,312	5,042,458
その他の包括利益累計額合計	3,290,312	5,042,458
新株予約権	119,644	121,897
純資産合計	8,905,128	10,602,702
負債純資産合計	12,975,464	15,008,594

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,000,410	2,086,440
売上原価	1,532,456	1,591,561
売上総利益	467,954	494,879
販売費及び一般管理費	311,442	338,817
営業利益	156,511	156,061
営業外収益		
受取利息及び配当金	172	43
受取手数料	350	606
補助金収入	775	2,430
保険解約返戻金	6,733	—
受取保険金	2,919	703
その他	1,956	1,024
営業外収益合計	12,907	4,808
営業外費用		
その他	377	905
営業外費用合計	377	905
経常利益	169,040	159,964
特別利益		
新株予約権戻入益	308	—
特別利益合計	308	—
特別損失		
役員退職功労金	51,300	—
特別損失合計	51,300	—
税金等調整前四半期純利益	118,049	159,964
法人税等	62,467	60,179
四半期純利益	55,581	99,785
親会社株主に帰属する四半期純利益	55,581	99,785

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	55,581	99,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	486,762	1,752,145
その他の包括利益合計	486,762	1,752,145
四半期包括利益	542,343	1,851,930
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	542,343	1,851,930
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったサンネクスタリーシング株式会社は、同じく当社の連結子会社である株式会社スリーSを吸収合併存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。また、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従来の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約について、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響は軽微であります。また、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

なお、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。前連結会計年度の「売掛金」については、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従っており、新たな表示方法への組替を行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	社宅マネジ メント事業	マンション マネジメン ト事業	インキュベ ーション事 業	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	980,882	924,971	94,556	2,000,410	—	2,000,410
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	247	1,856	16,962	19,066	△19,066	—
計	981,130	926,828	111,518	2,019,477	△19,066	2,000,410
セグメント利益	323,026	22,123	258	345,408	△188,896	156,511

(注) 1. セグメント利益の調整額△188,896千円は、セグメント間取引消去4,450千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△193,347千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	社宅マネジ メント事業	マンション マネジメン ト事業	インキュベ ーション事 業	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	1,012,814	978,125	95,501	2,086,440	—	2,086,440
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	94	2,054	18,095	20,244	△20,244	—
計	1,012,909	980,179	113,597	2,106,685	△20,244	2,086,440
セグメント利益又は損失 (△)	354,532	2,695	△5,247	351,980	△195,918	156,061

(注) 1. セグメント利益の調整額△195,918千円は、セグメント間取引消去3,219千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△199,137千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、各事業セグメントの売上高及びセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。